

犬童議員（民主県政会）

令和4年2月25日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）学校の統廃合に係る今後の方針について

県立呉昭和高校の廃校が強行されたが、広域の教育行政を担う県として、域内全体の県立学校教育の充実発展に責任を持つ立場から、これ以上の県立高校の統廃合は進めるべきではないと考えるが、今後の方針等について教育長に伺う。

（答）

県立高等学校につきましては、「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画」に基づき、教育の機会均等及び高等学校教育の質的水準の維持・向上の観点から、全県的な視野に立って、学校の規模や配置の適正化に取り組んでいるところであり、中山間地域以外の地域については、1学年4から8学級、中山間地域については、2から6学級の範囲内を基本としております。

その上で、1学年1学級規模校につきましては、学校関係者や地域の代表者等で構成する「学校活性化地域協議会」を設置し、生徒数の増加や学校の活性化に向けた取組を検討することなどにより、全校生徒数が収容定員の三分の二以上となることを目指しているところでございます。

教育委員会といたしましては、今後も中長期的に中学校在籍者数の減少が見込まれることなどを踏まえ、引き続き、全県的な視野に立って取組を進めてまいります。